

特別速報レポート

国際エネルギー情勢を見る目（42）

2011 年 5 月 13 日

アジアのエネルギー安全保障問題と中国

(財) 日本エネルギー経済研究所
理事 戦略・産業ユニット総括
小山 堅

5 月 1~7 日、タイ・バンコクと米国・ワシントン DC において二つの国際会議に参加し、あわせて、多くのエネルギー専門家等と意見交換を行う機会を得た。話題は様々な分野に及んだが、共通した論点として、最近の国際政治・経済環境の下でのアジアのエネルギー安全保障問題とその中の中国の重要性、という点があった。

「最近の国際政治・経済環境の下」というキーワードに関しては、中東・北アフリカ (MENA) 情勢の流動化、原油価格の高騰、高まる天然ガスへの期待、一層重要性を増す中国の動向、そして東日本大震災の影響、等の要因の重要性が指摘できる。以下では、これらの要因を踏まえて、今回の意見交換を通じて改めて意識させられたアジアのエネルギー安全保障問題を考える上での論点を 4 つ提示してみたい。

第 1 は、アジアにおいて高まるエネルギー輸入依存度に関連した問題である。短期的にも、中長期的にも、アジア（特に新興国）のエネルギー需要増大が世界全体の需要増を牽引するであろうことは世界の関係者の衆目が一致するところである。その度合いは、短期的には経済成長、中長期的には技術進歩などが影響しそうが、着実な需要増加トレンドとなる確率は高い。また、特にガス (LNG) や石油などについては、東日本大震災の影響で日本の需要が従前の想定より大きくなることも見逃すことのできない要素である。その結果、今回の国際会議で話題となった石油・ガスについては、アジアの輸入依存度が大幅に高まることは必至である。そして、その増大する輸入を供給する地域として、やはり中東に依存せざるを得なくなることも不可避である。

その点、今般の MENA 情勢の流動化はアジアのエネルギー安全保障確保にとって新たな、そして大きな課題を突きつけることになった。そのため、アジア諸国は、市場不安定化に対応するための緊急時対応能力強化など短期的な問題への対応、エネルギー需給構造の高度化・改革など長期的な対応、さらには中東産油国等との関係強化やアジア域内でのエネルギー協力強化など外交・国際関係面での対応など、広範な分野に及ぶチャレンジに直面することとなる。また、アジアのエネルギー輸入増大は、中東・アフリカ地域などからのエネルギー輸送の安全確保の重要性をも高め、シーレーン問題とエネルギー安全保障のリンクを強めることになる。アジアにおける海域での様々な領土・領海問題の存在と合わせて、アジアのエネルギー安全保障の新たな注目点として浮上しており、この問題に関しては戦略的観点からアメリカの関心も高まっているのである。

第 2 には、輸入依存増大との関係も深いが、原油価格高騰の影響に関する関心の高まり

がある。MENA 情勢など地政学リスクの影響と共に、石油先物市場でのマネー・金融要因の影響増大など価格高騰の背景も複雑化しており、大消費国・輸入国としてのアジア各国では、原油価格高騰が重要な経済課題となりつつある。おりしも、中国などではインフレ高進への懸念・警戒感も高まる中、エネルギーをはじめとする資源・食料・商品全般の価格上昇に対する問題意識が高まるのは当然ともいえる。また、価格高騰の要因が複雑化しているだけに、その対応策も一筋縄では行かなくなる可能性も高い。また、後述するように期待が高まるガスについて、アジアでは LNG 価格が原油価格連動であるだけに、原油価格高騰は直接 LNG 価格の高騰をもたらす要因であり、この面でもアジアのエネルギー安全保障問題に影響することになるのである。

第 3 に、アジアにおいても「黄金時代の到来」が期待されているガスについて、安定供給確保とエネルギー安全保障面での課題が注目されるようになっている。アジアでは欧米と比してそもそも一次エネルギーに占めるガスのシェアが低い(2009 年時点でアジア 11%、米 27%、EU26%)ため、アジアでのガス利用の拡大はエネルギー源の多様化・分散化という意味でそれ自体がエネルギー安全保障確保に貢献する側面がある。他方、今後大幅に増大する需要に対して、タイムリーな投資が行われ、供給能力が十分に確保されていくのか、ガス (LNG) の価格がどうなっていくのか、など安定供給面での関心事項も多い。また、この点に関して、大震災の影響で日本の LNG 需要が大幅に増大していくことが、短期的にも中長期的にもアジアのガス (LNG) 市場にどのような影響を及ぼすのか、がこの地域のエネルギー政策・産業関係者の重大関心事となっている点に留意する必要もある。

第 4 に、上述の 3 点全てを考える上でも非常に重要であるが、アジアのエネルギー安全保障を考える上で、中国の存在が如何に重要か、という論点がある。これは中国の需要と輸入の増大による需給バランスへの影響、という根本的な問題から、アジアの、ひいては国際エネルギー市場における中国の戦略や行動といった需給以外の側面での影響など、実際に多様な観点で中国の存在感が飛びぬけて大きくなっているためである。米国での議論においては、エネルギーの安全保障問題から、さらに広げてレアアースなどの重要資源の供給セキュリティ問題が重要トピックとなり、その問題における中国の政策・関与に関する非常に高い関心が寄せられた。エネルギー安全保障問題に関しては、前述の項目 2 で述べた「価格高騰のインパクト」という側面と同時に「物理的な供給不足」という二つの懸念事項がある。エネルギー安全保障の歴史を振り返ると、多くの場合は「価格高騰のインパクト」が問題であり、「物理的な供給不足」が真に発生した例はあまり無い。しかし、実は「物理的な供給不足」に対する懸念が発生すると、より深刻かつ重大な問題として捉えられるケースが多い。昨年のレアアース供給削減を見るように、この問題は「物理的な供給不足」として捉えられたこと、レアアースが多様なハイテク技術に不可欠な物質であること、そのため軍事産業・技術などの戦略的な分野においても極めて重要性が高いこと、などから、その供給セキュリティ問題とそこでの中国の存在が重要な問題関心となっているのである。アジアのエネルギー安全保障問題を左右する重要な要因としての中国に関する正確な分析と共に、エネルギー安全保障確保という共通利益追求のため中国との対話・協力を今まで以上に促進していく必要があろう。

以上

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp